



【証券コード：9651】

日本プロセス株式会社 決算説明会

2019年5月期 第2四半期



2019年1月18日

1. 2019年5月期 第2四半期連結決算

2. 重点施策の取組み

3. 今期の見通し

1. 2019年5月期 第2四半期連結決算

2. 重点施策の取組み

3. 今期の見通し

連結決算の概況 (期首公表値)

単位：百万円

	期首 計画	計画 対比	実績	前年 対比	前年
売上高	3,200	+83 +2.6%	3,283	+295 +9.9%	2,987
営業利益 (利益率)	190 (5.9%)	+109 +57.6%	299 (9.1%)	▲20 ▲6.5%	320 (10.7%)
経常利益 (利益率)	210 (6.6%)	+116 +55.3%	326 (9.9%)	▲15 ▲4.7%	342 (11.4%)
四半期純利益 (利益率)	140 (4.4%)	+107 +76.7%	247 (7.5%)	+78 +46.4%	168 (5.7%)

売上高

前年比：+295百万円（+9.9%）

全社的に受注環境が好況の中、受注条件の改善や
オフショア開発拡大で増収

営業利益

前年比：▲20百万円（▲6.5%）

持続的な成長に向けた投資による

経常利益

前年比：▲15百万円（▲4.7%）

営業利益の減少による

四半期純利益

前年比：+78百万円（+46.4%）

前年は周年記念事業特損あり、負ののれんを計上

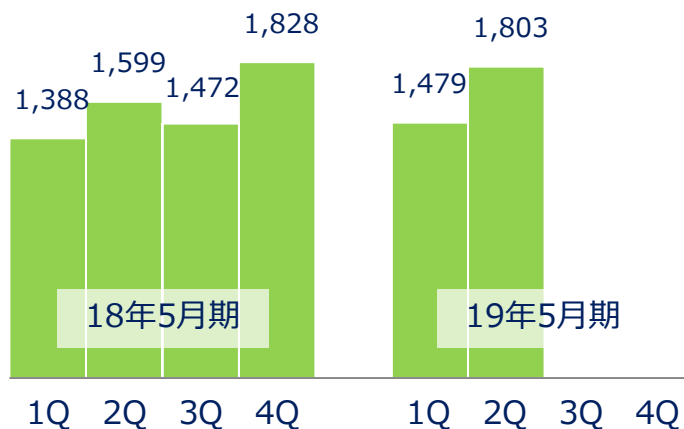
【トピックス】

- 働きやすい環境への投資
 - ・京浜事業所を駅近インテリジェンスビルに移転
 - ・川崎地区、みなとみらい地区に開発拠点新設
- 全社員を対象とした給与ベースアップの実施、奨学金返済支援制度を新設
- 受注条件の改善、請負化推進とオフショア開発拡大に加え、プロジェクト管理の強化により生産性が向上し、利益は前年比減益も期首計画比大幅増益
- 増配：中間10円→12円、通期20円→24円

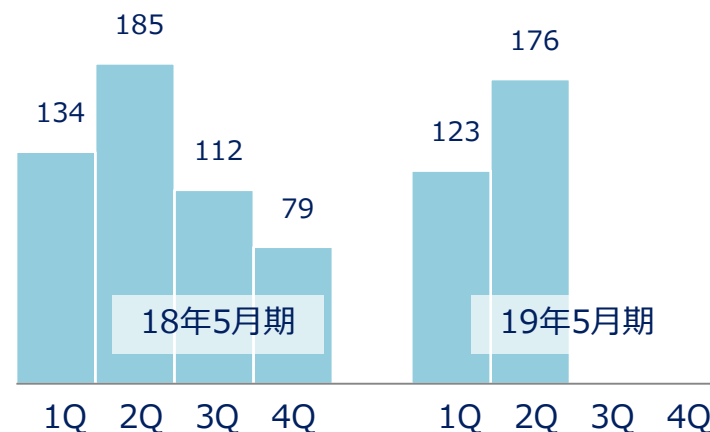
2019年5月期第2四半期 連結決算の四半期推移

単位:百万円

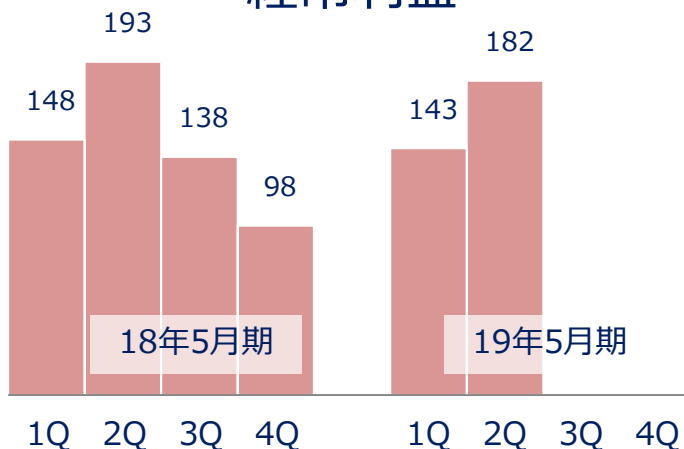
売上高



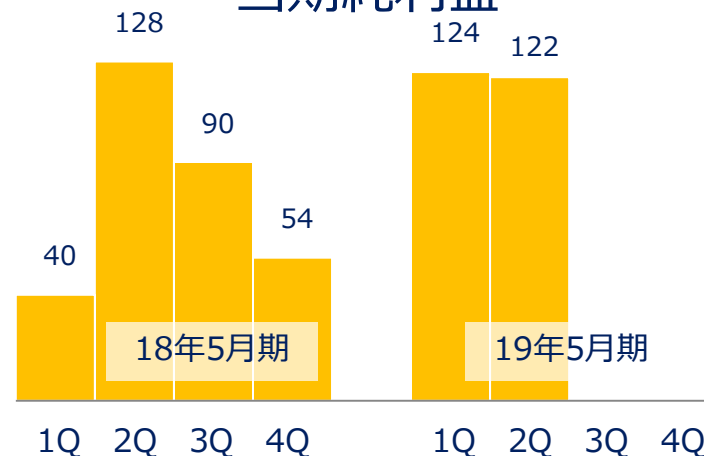
営業利益



経常利益



当期純利益



セグメント別売上増減

単位：百万円

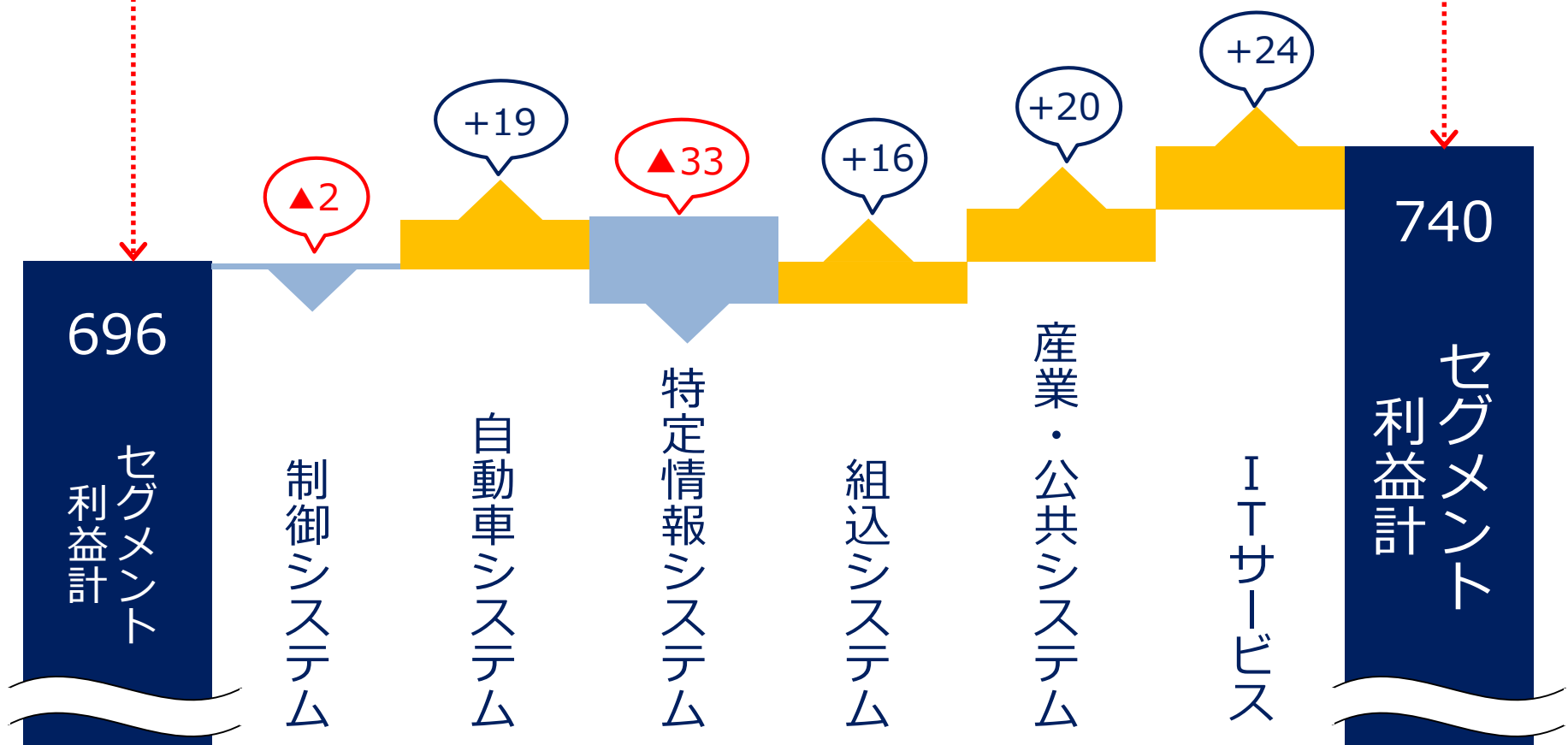
295百万円の増加 (前年同期比：+9.9%)



セグメント別利益増減

単位：百万円

44百万円の増加 (前年同期比：+6.4%)



18年5月期
第2四半期

※セグメント利益には、各セグメントに配分していない全社費用は含まれていません。

19年5月期
第2四半期

制御システム

- 発電所監視制御と配電自動化で作業量が増加
- 新幹線運行管理リプレイス案件で体制を拡大、在来線運行管理と東京圏輸送管理（ATOS）は堅調

単位：百万円

セグメント		18年5月期 第2四半期 (利益率)	19年5月期 第2四半期 (利益率)	増 減 (増減率)
制 御 シ ス テ ム	売上	514	542	+28 (+5.5%)
	利益	136 (26.4%)	133 (24.6%)	▲2 (▲1.8%)

※セグメント利益には、各セグメントに配分していない全社費用は含まれていません。

自動車システム

- 需要が旺盛な自動運転/ADASは車載ネットワーク制御や基盤ソフトウェアが好調に推移
- 車載制御はエンジン制御、変速機制御とも横ばいも、電動化案件が拡大
- 中国大連のグループ会社でのオフショア開発を拡大

単位：百万円

セグメント		18年5月期 第2四半期 (利益率)	19年5月期 第2四半期 (利益率)	増 減 (増減率)
自動車システム	売上	750	850	+99 (+13.3%)
	利益	165 (22.1%)	185 (21.8%)	+19 (+11.7%)

※セグメント利益には、各セグメントに配分していない全社費用は含まれていません。

特定情報システム

- 危機管理は大型請負案件の検収が下期となるため、売上、利益とも減少
- 得意とする画像認識/識別では自動運転/ADASの道路標識案件で体制を拡大

単位：百万円

セグメント		18年5月期 第2四半期 (利益率)	19年5月期 第2四半期 (利益率)	増 減 (増減率)
		特定情報システム	売上	300
	利益	80 (26.8%)	47 (21.4%)	▲33 (▲41.0%)

※セグメント利益には、各セグメントに配分していない全社費用は含まれていません。

組込システム

- ストレージデバイスは企業向けが堅調
- 大規模クラウド向け次世代ストレージ試作研究開発で体制を拡大
- 医療関連は薬剤分包機開発で担当範囲を拡大
- 建設機械メーカーのIoT案件が堅調

単位：百万円

セグメント		18年5月期 第2四半期 (利益率)	19年5月期 第2四半期 (利益率)	増 減 (増減率)
組込システム	売上	379	472	+92 (+24.4%)
	利益	100 (26.4%)	116 (24.6%)	+16 (+16.0%)

※セグメント利益には、各セグメントに配分していない全社費用は含まれていません。

産業・公共システム

- 駅務機器開発、鉄道子会社向けエンジニアリングサービスは堅調
- AI関連は新たに医療機器画像分析案件を受注
- IoT関連は通信制御セキュリティ案件で体制を拡大

単位：百万円

セグメント		18年5月期 第2四半期 (利益率)	19年5月期 第2四半期 (利益率)	増 減 (増減率)
産業・公共システム	売上	646	756	+109 (+17.0%)
	利益	159 (24.6%)	179 (23.7%)	+20 (+12.8%)

※セグメント利益には、各セグメントに配分していない全社費用は含まれていません。

ITサービス

- 構築サービスはパブリッククラウド分野を戦略的に拡大
- 保守/運用サービスは鉄道子会社の大型案件が好調

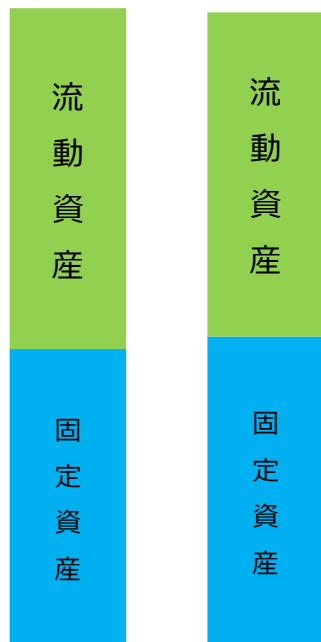
単位：百万円

セグメント		18年5月期 第2四半期 (利益率)	19年5月期 第2四半期 (利益率)	増減 (増減率)
ITサービス	売上	395	439	+43 (+11.1%)
	利益	54 (13.8%)	78 (17.9%)	+24 (+44.2%)

※セグメント利益には、各セグメントに配分していない全社費用は含まれていません。

資産の部

10,066 10,002



－主な変動要因－

現金及び預金	▲932
有価証券	+100
売上債権等	+297
仕掛品	+170
投資有価証券	+252

18年5月期末 19年5月期
第2四半期末

負債/純資産の部

単位：百万円

10,066 10,002



－主な変動要因－

未払法人税等	▲148
賞与引当金	▲289
利益剰余金	+149
その他有価証券 評価差額金	+106

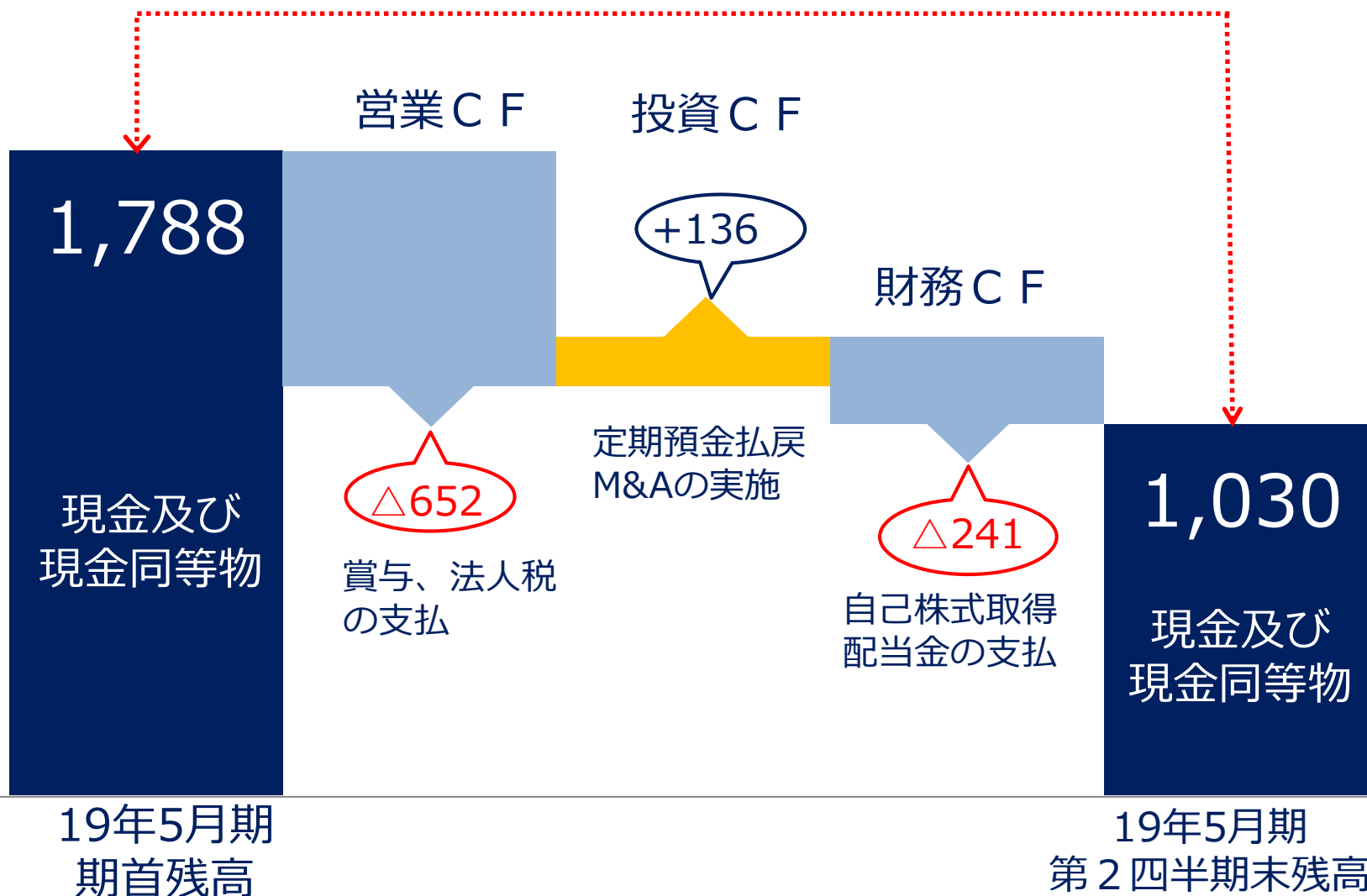
18年5月期末 19年5月期
第2四半期末

財務指標（その他）

	18年5月期 第2四半期	19年5月期 第2四半期	(参考) 18年5月期
純資産額	8,341百万円	8,799百万円	8,514百万円
1株当たり純資産	847.25円	894.27円	866.46円
1株当たり四半期 (当期)純利益	17.17円	25.29円	31.88円
自己資本比率	90.0%	88.0%	84.6%
自己株式	800,150株	805,287株	818,103株
従業員数	535人	549人	545人

※17年12月1日を効力発生日とし、普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行いました。
18年5月期第2四半期数値は株式分割が行われたと仮定し算定しております。

単位：百万円



1. 2019年5月期 第2四半期連結決算

2. 重点施策の取組み

3. 今期の見通し

中期経営ビジョン

ソフトウェアで
社会インフラ分野の安全・安心、快適・便利に貢献する。

基本方針（2019年5月期～2021年5月期）

1. 獲得事業の主力化と新分野の開拓
 - ①自動運転/A D A S*1、I o Tを主力事業へ
 - ②A I、ネットワーク、セキュリティ、クラウド等で、
更なる注力分野を開拓
2. 持続的成長への投資
3. T - S E S（トータル・ソフトウェア・エンジニアリング・サービス）*2の継続

*1：A D A S：先進運転支援システム *2：弊社の造語

中期経営ビジョン

ソフトウェアで
社会インフラ分野の安全・安心、快適・便利に貢献する。

基本方針（2019年5月期～2021年5月期）

1. 獲得事業の主力化と新分野の開拓
 - ①自動運転/A D A S*1、I o Tを主力事業へ
 - ②A I、ネットワーク、セキュリティ、クラウド等で、
更なる注力分野を開拓
2. 持続的成長への投資
3. T - S E S（トータル・ソフトウェア・エンジニアリング・サービス）*2の継続

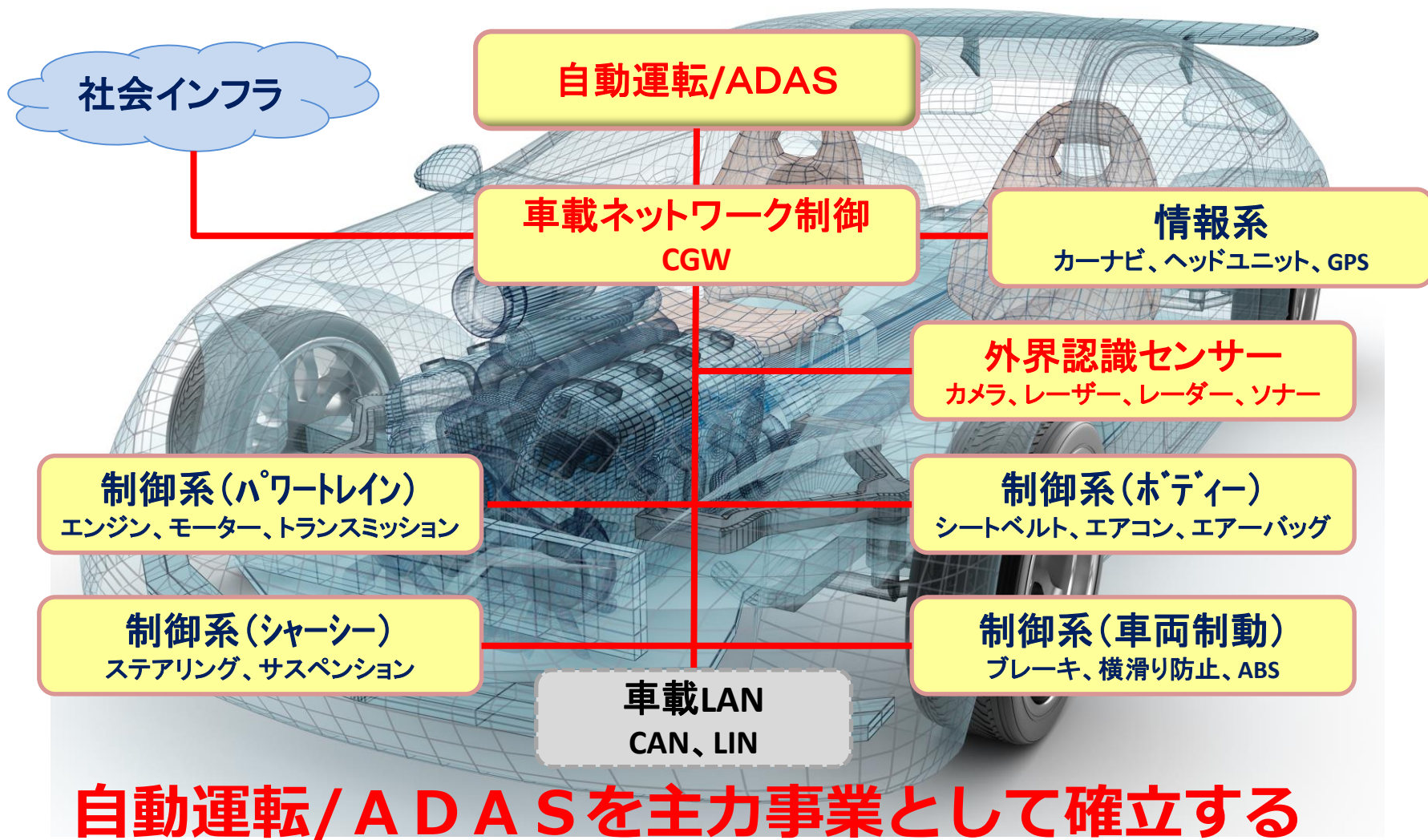
*1：A D A S：先進運転支援システム *2：弊社の造語

基本方針①

1. 獲得事業の主力化と新分野の開拓



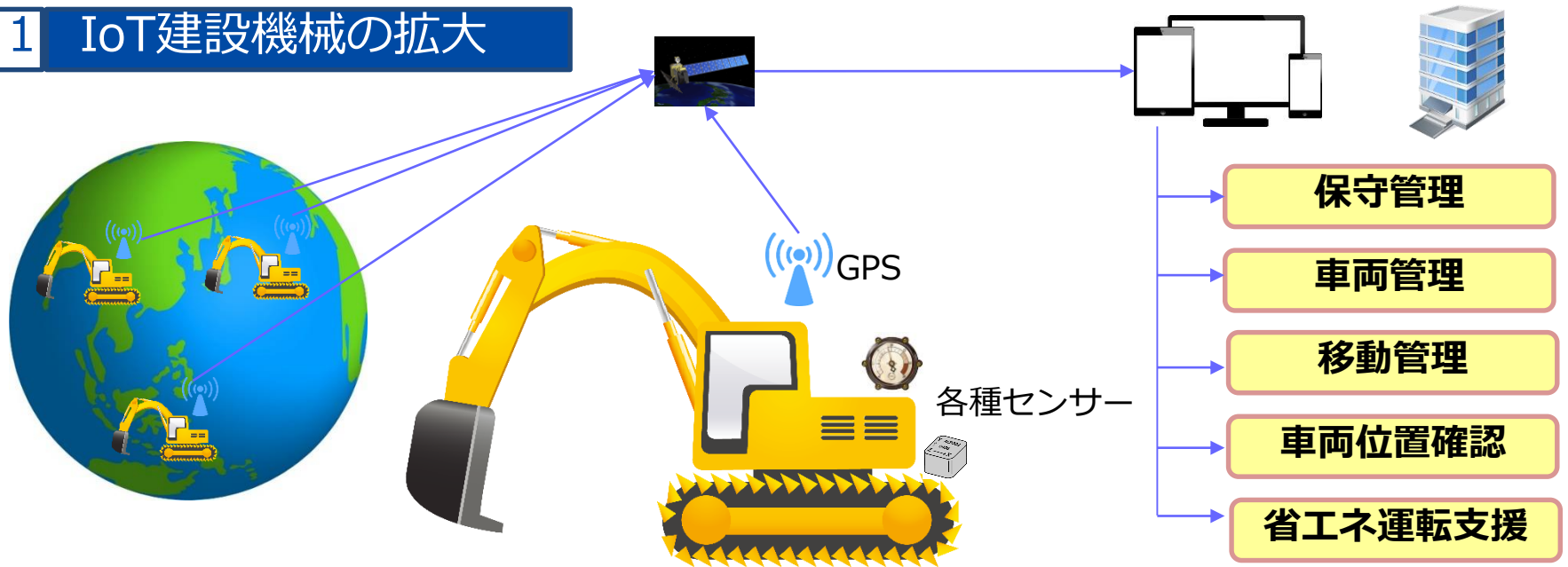
C A S E (Connected : コネクテッド、Autonomous : 自動運転、Shared : カーシェアリング、Electric : 電動化)



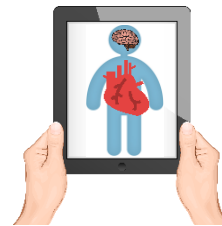
基本方針②

1. 獲得事業の主力化と新分野の開拓

1 IoT建設機械の拡大



2 医療関連のIoT分野



前中計で獲得した **IoT分野**を主力事業へ育てる

基本方針③

1. 獲得事業の主力化と新分野の開拓

更なる注力分野を開拓



A I

ネットワーク



セキュリティ

クラウド



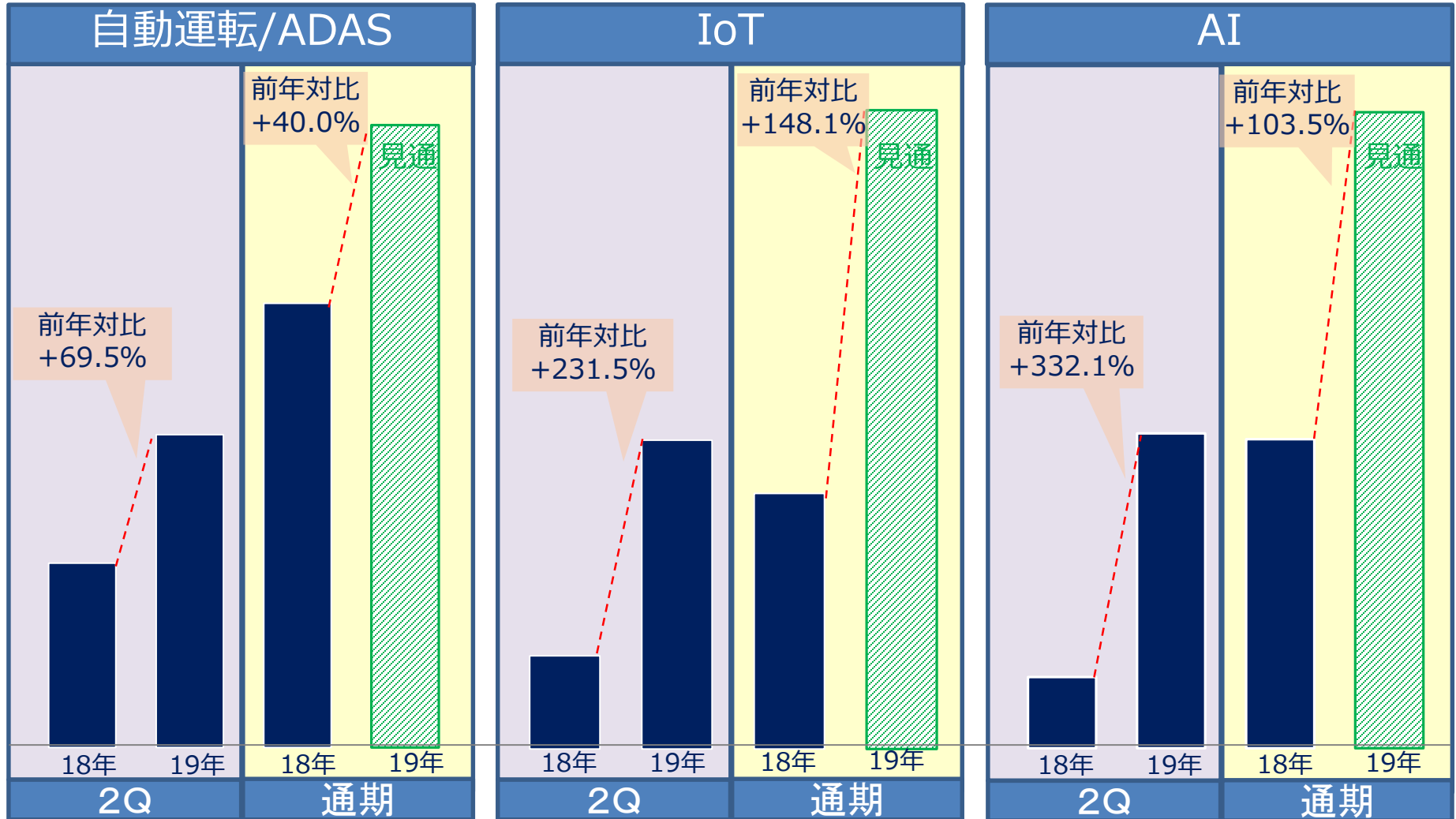
etc...

【取組み中の分野】

AI画像認識/識別、AI基盤システム、
ロボティクス、IoT建設機械クラウド基盤

1. 獲得事業の主力化と 新分野開拓への取組み

◆対前年伸長率



中期経営ビジョン

ソフトウェアで
社会インフラ分野の安全・安心、快適・便利に貢献する。

基本方針（2019年5月期～2021年5月期）

1. 獲得事業の主力化と新分野の開拓
 - ①自動運転/A D A S*₁、I o Tを主力事業へ
 - ②A I、ネットワーク、セキュリティ、クラウド等で、
更なる注力分野を開拓
2. 持続的成長への投資
3. T - S E S（トータル・ソフトウェア・エンジニアリング・サービス）*₂の継続

*1：A D A S：先進運転支援システム *2：弊社の造語

- 1) 働きやすい環境への投資
 - ・ オフィスや設備など
- 2) 生産設備への投資
 - ・ 開発/検証ツール、H/Wなど
- 3) 人材への投資
 - ・ 採用、教育、先行技術など
- 4) 働きやすい制度の活用と見直し
 - ・ 福利厚生、各種規程など

持続的な成長

結果

社員の定着、活力向上
生産性の向上

投資

結果



社員の安心、健康、快適、成長、やりがい、などの向上

物心両面から持続的成長の基盤を作る

2. 持続的成長への投資

1) 働きやすい環境への投資

- ・ 京浜事業所を駅近のインテリジェンスビルに移転
- ・ 川崎地区、みなとみらい地区に開発拠点新設
- ・ 日立事業所の開発環境改善

2) 生産設備への投資

- ・ 様々な車載装置のテストを可能とするシミュレーターツールの導入

2. 持続的成長への投資

3) 人材への投資

①技術者確保への取組み

- ・ 中途採用エージェントを増やし、転職フェア出展も強化
- ・ 中国（大連）で継続的に優秀な技術者を確保
2017年度66名→2018年度85名→(2019年度100名予定)
- ・ 社会インフラ分野に強いアルゴリズム研究所を子会社化

②技術力向上への取組み

- ・ AI/DL、A-SPICE、MBD、IoTセキュリティ、
制御分野へのオブジェクト指向開発適用などの教育を継続

2. 持続的成長への投資

4) 働きやすい制度の活用と見直し

- ・ 奨学金返済支援制度の新設
- ・ 年次有給休暇の計画的付与と取得フォロー
- ・ 過重労働防止の強化
- ・ インターバル制度の新設

主力事業化と新分野の開拓として取組中

自動運転/ADAS

航空/宇宙

建設機械

医療関連



画像認識/識別

IoT

AI

ネットワーク

セキュリティ

クラウド

外部企業との連携を強化し、取組みスピードを加速

- ① 医療画像処理技術に強いインド企業と業務提携
・ 医用画像管理パッケージ関連
- ② 画像認識/識別技術やAIアルゴリズムに強い企業と業務提携（国内）

1. 2019年5月期 第2四半期連結決算

2. 重点施策の取組み

3. 今期の見通し

制御システム

- ・ 配電自動化を拡大、エネルギーマネージメントシステムなどの新ビジネス開拓
- ・ 在来線のリプレース案件、新幹線運行管理は堅調
- ・ 台湾新幹線リプレース案件の一括受注

自動車システム

- ・ 自動運転/ADASは好調、主力事業化に向け拡大
- ・ エンジン制御、変速機制御は概ね横ばい
- ・ 請負案件の拡大でオフショア開発をさらに推進

特定情報システム

- ・ 危機管理では大型請負案件が下期に検収予定
次の大型請負案件の来期受注に注力
- ・ 画像認識/識別で新たな顧客への参入を狙う

組込システム

- ・ ストレージデバイスの企業向けは堅調
- ・ 大規模クラウド向け次世代ストレージ製品開発へ
- ・ 次の中核ビジネスへのシフトに注力
(IoT、医療関連、ステレオカメラ/BSW)

産業・公共システム

- ・ 駅務機器は堅調に推移
- ・ 航空/宇宙関連は主力事業化に向け拡大に注力
- ・ IoT関連は物流倉庫向けが堅調に推移
- ・ AI関連は新たな案件受注に注力

ITサービス

- ・ 構築サービスではパブリッククラウド分野を拡大し、主力事業化へ
- ・ 保守/運用サービスでは鉄道子会社の大型案件が好調

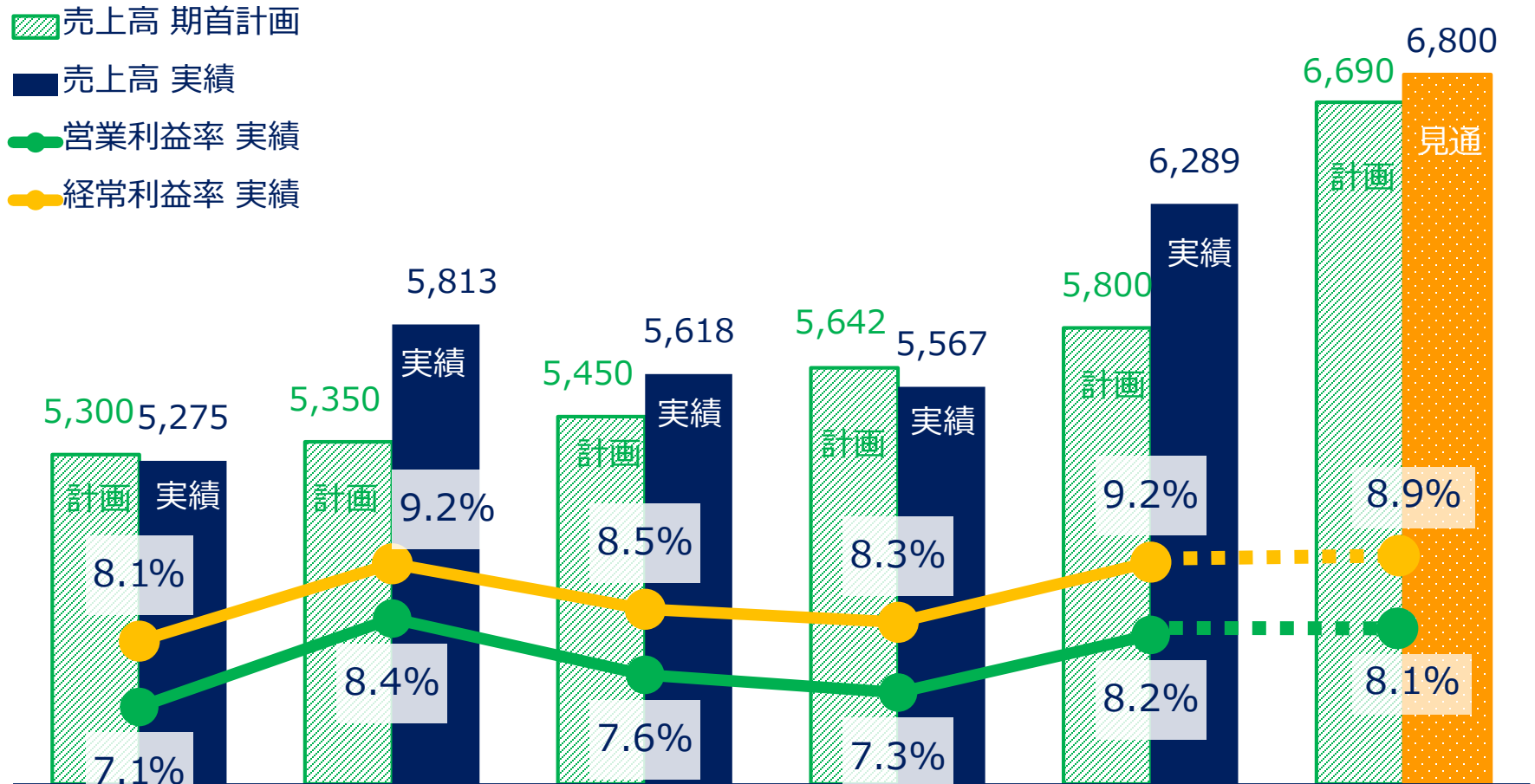
2019年5月期 連結数値計画

単位：百万円

	18年5月期 実績	19年5月期 見通し	増減額 (増減率)
売上高	6,289	6,800	+510 +8.1%
営業利益 (利益率)	512 (8.2%)	550 (8.1%)	+37 +7.2%
経常利益 (利益率)	579 (9.2%)	605 (8.9%)	+25 +4.4%
当期純利益 (利益率)	314 (5.0%)	430 (6.3%)	+115 +36.9%

連結数値の推移

単位：百万円



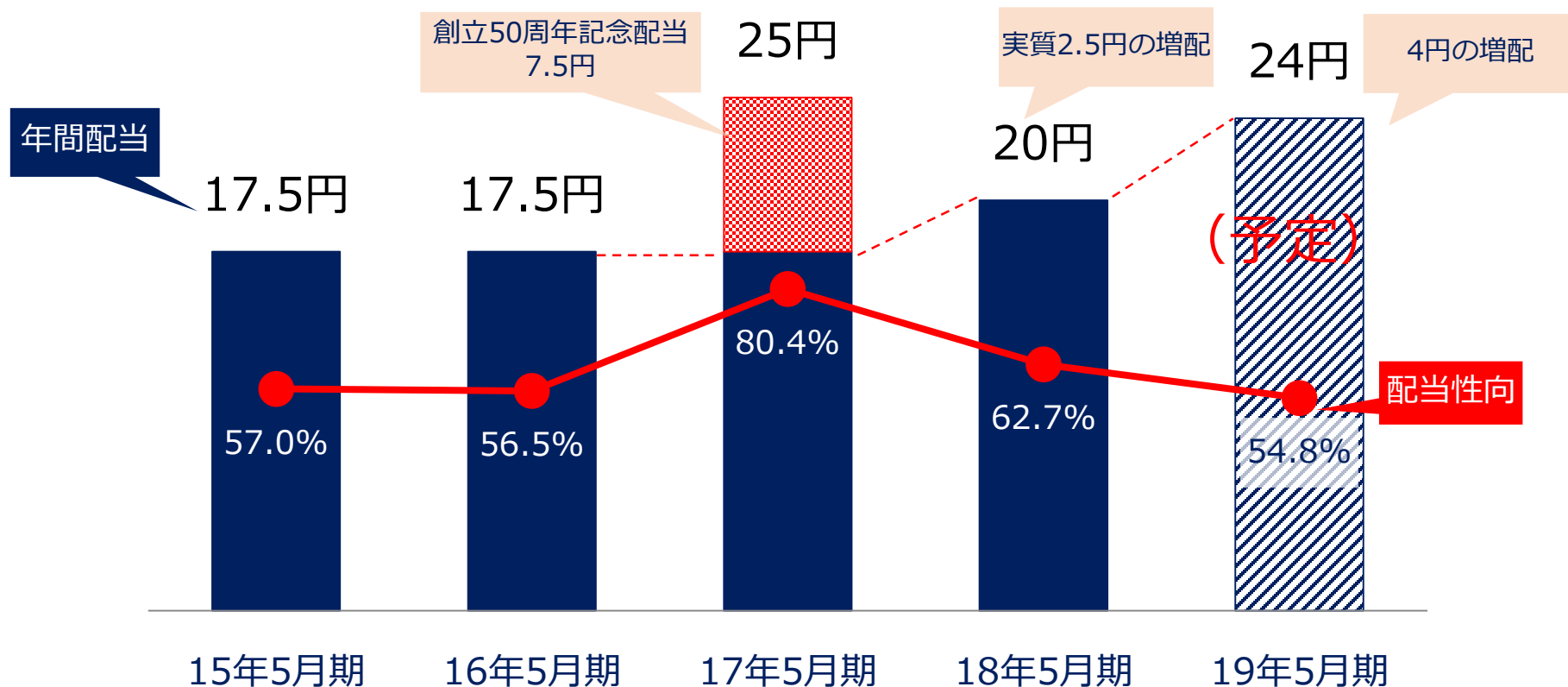
14年5月期 15年5月期 16年5月期 17年5月期 18年5月期 19年5月期

← 第3次中計 | 第4次中計 | 第5次中計 →

配当方針

① 安定的配当の継続

② 配当性向50%以上を目標



※17年12月1日を効力発生日とし、普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行いました。
年間配当額、配当利回りは、15年5月期の期首に株式分割が行われたと仮定し算定しております。

ソフトウェアで

社会インフラ分野の安全・安心、快適・便利に貢献します。

免責事項

本資料は作成時点での予測や仮説に基づく記述が含まれています。

これら将来の見通しに関する記述についてはその実現を保証するものではなく、既知、未知のリスクや各種要因により実際の結果、業績と異なることがあります。

お問合せ

経営企画部 部長 米島英紀

keikibu@jpd.co.jp